

岡山県立高梁城南高等学校

青い鳥ブッポウソウの生態調査と保護活動を通じて
環境教育の推進と未来の地域を支える人材育成



高梁市のシンボル、現存12天守のひとつ「備中松山城」

「森の宝石」ブッポウソウを調べる

様々な動機で集まったメンバー

絶滅危惧種の渡り鳥ブッポウソウ。その日本有数の飛来地である岡山県中部に位置する県立高梁城南高等学校では、有志の生徒が生態調査と保護活動を行っている。昨年度は3年生5名が環境省等主催の全国ユース環境活動発表大会で地方予選を突破し、全国大会に出場した。担当の光石正和教諭は「巣箱に設置するカメラの調整が遅れ、ブッポウソウの東南アジアへの渡りに間に合わないなど失敗続きでしたが、それらをありのまま発表したことが評価されたようです」と話す。

今年度は1、2年生の5名が、「もともと鳥が好きだった」(2年、畑僚真さん)、「小学校で巣箱作りを経験したこともあり、ブッポウソウに思い入れがある」(2年、貝原希美さん)など、様々な動機で参加している。



昨年度の研究チーム名は「グエツ、ゲゲゲのブッポウソウさんのオーケストラ・グエツ」。
今年度のチーム名は現在検討中



貴重なブッポウソウのヒナを観察する様子



ブッポウソウの標識調査を見学

観察会で高まった研究熱

6月と7月には野鳥の会の協力で観察会や標識調査の見学を行ったが、初めて間近でブッポウソウを見たメンバーたちは、「青い羽色が美しく感動しました」(2年、澤田真里さん)、「ヒナを見る貴重な体験ができました」(貝原さん)と感慨深げだ。

光石教諭は、「昨年もそうでしたが、興味がある対象に実際に触れると、生徒たちは自主的に活動するようになります」と言う。その言葉どおり、2年の内田孝多朗さんは自ら地元の大学主催の研究発表コンクールへの参加を決め、「ブッポウソウがこの地域に多く集まる理由などをテーマに研究したい」と話す。また、昨年度の活動をSNSで見したことなどを機に滋賀県から越境入学した1年の多胡千陽さんも、「鳥は求愛するオスがきれいな色であることが多いのですが、ブッポウソウはメスもきれい。その理由を知りたいです」と話すなど、メンバーの研究熱が高まっていた。(複数校連携助成2年目)



合同観察会では近隣小学生への野鳥のレクチャーも行った



中谷財団成果発表会での口頭発表。質疑応答では鋭い質問も

●実施担当

光石正和 指導教諭

●活動のモットー

「生徒より楽しむ」。私自身が活動を心から楽しみ、ワクワクしている姿を見せることが、生徒の探究心につながると考えている。

学校概要



高梁工業高校、川上農業高校、成羽高校の県立3校が再編されて創設。電気科、デザイン科、環境科学科の3学科を設置する。

設立: 2004年

生徒数: 312人

所在地: 岡山県高梁市原田北町1216-1

この活動は、中谷財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人 中谷財団

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

中谷財団

検索



シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎が私財を投じて設立。BME(Bio Medical Engineering)分野の発展を願い、表彰事業をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、小中高校生の科学探究活動に対し助成事業を行っている。2024年に設立40周年を迎えた。